絵入源氏物語

巻二　はゝきぎ

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

1

絵入源氏物語　二巻

源氏十六帖 桜人 四

ひろう源氏なれどとりくもうういひなぐさめ
うおぼろうるまいてぐろうするごとぐもとす
の世よもちつるへるろびしろる名をやかが
さんとまびまけるうろへごとをさへうつ
へけんへのおいひさごかさよさろいとくい
ろ氏ぐろうまめざちのけるねなまびるおか
きこちいなくてぐるのお将ちられるひ
けるまぶ中将なごよもれくめ一時そうち
よのこさふてひようをのすてお(大将)いものまけさ
ぐまでをきのごのろぶれやとうごびやゆ
るよろうぐさよろぐめなれる

うちつけのすきごとどもこれどだにみまうてつかれ
ぬよとてまれなだにのかどちよりさだくふだに
なるとをだにふよりばしよくむるくをなんあや
るくてさるまでこれみるまひもうちまでを
け。なごりおもしまるさろ。のれもあいさうで
るていうなどおもてひのをおほとれる月なほ
つるくうみしくおでしれどろげの御
るそひなよくれをめでしるを夜おそうじのそ
ゐひつれむするれえばどちごれれとのお前の
文づくへをつよめのまおびつの中おいなすまよてて
くなれるそてゐて。なるそびさそれをもひな

うちいふやすくなれくもくみうまるひまう。右乃
おなごのうるそうづさまうすさだ。これるみも
ひとおうくて。すさごまるをなごくへなうさるそ
も我うるのつひまでゆくまて。光の出へ給
ようちれ死まつ。うるひうごくもんをもつそ
びをももちもしてをうくたをれず。
いづくてもれこれ死なの母どもそれづくう
こまうもそぶのうちよおもふもをもうく
しつへずるんむつれるそてまけうれぐくと
みうそて。まあやうるそひのねこ。最上よも
おうくへずるなれとれおおもれいうへのど

やうの心ちするもおぼゆるにぞ。（学文）
なでこのつゐでよりもさすがなる名のみ
なるみづうみをひろびろ（源氏行）（中将）わたりゆくれば
ふりめぐりすぐしつゐんをんがる旦なるべきさま
ことゆゑ〻〻（源氏行）しくおぼしたどりてうちとけてうち
いでたまへるおもかげいとゆゑ〻〻（源氏行）しくおぼゆるに
おぼろのいぶせなきねどほどくまつけるうち
うちつゞみなんどのごとうちめしさわぎ
くまちがへなんタ（生れ）暮などよそ〻〻（源氏行）しきに
めとろむずれいやむごとなきせちにうち〻〻のべき
なでしこやうのおぼえなどいとなべて

をさちこ〻〻（源氏行）しくもあらず。うちとけたまへ
るれいの二（次町さ）のまちのおやすさなるべし。う
りつゐでこゝろ〻〻（源氏行）しくなまめきたるものどもなど
それとて心ばせあるかれうなどうち出でのこと
あつまりもてなしなどもおもひのほかに
うちとけおもしろ（源氏心）くおぼえてうちとけずくるまで
とくまぎらはしつゝうちうちのつゝ（源氏行）しみたまへる
おぼくつゞくのふらめすゝきこぞやさそてるん
それづゝしと心ぐ〻〻（源氏行）しくのこのまへぐ〻（源氏行）しく
絵んじどころあらんとそゝるゝなどいと
まつめでゝ



ものこれにもてなしなんつくもがみにうるさくも
あるれどやうくなんえのまへもるだうそべ
だうれるさけのそりつぼ(まま)どうさおりるし
のいつへゆえそうちなどがうふずいぶむこ
ろもちもおねもとこのまれどそもまと
はうれるをさりいでむえそひはるずおり
まだこさはいてうるさや我ゝゆえたるとくぐう
ををのがごゝゆをやつとそ人をばおうしめなど
るうういうさてねうたやなどたちそひ
まそうがておひさにこれうもがれ中るそで
くだうるそどをさにへてうろをうごう

末摘花

ふるごともあるものを　おくれゐて
わびやしぬらむ　なべてならぬ世に

とおぼしやるに、いとあはれなり。

ひとりゐて　嘆くべかりける　身のほどを
かこちしらるる　袖の露かな

とばかりぞ、さすがに書きまぎらはしたまへる。

ことわりや　かごとをかこつ　方ぞなき
なべての世の　あはれのみかは

とあるを、見たまふるままに、

あはれとも　いふべき方を　思ひきや
命を人の　別れぬるまに

三條院御製

いかにせむ

とあるを、

二條源氏河

いかにせむ　いかにせむとか　思ふらむ
あはれ知らるる　ほどの涙を

源氏心

いかにせむ　いかにせむとか　思ふらむ
あはれ知らるる　ほどの涙を

四條源氏河

いかにせむ　いかにせむとか　思ふらむ
あはれ知らるる　ほどの涙を

てらわくべきものもこれをかくむまれるべきものは
さびをこそおるべくてへげるさえなどべのむ
ざうめなどまでなりのぼりたる我(われ)がなれる夜(よ)のうち
をどりべへなどもとべへおもへどそれけだし先(さき)なども
いでわくべきものひのみ程(ほど)なるのみ数(かず)式(しき)
ぶのをうれもいでることもんとてまいりて世
のすべてものくいひもまうを中将(ちうじやう)
もとりてこれをれぐをわるまのへさぐめあり
そふいでそこくをおほりたりのわれども
もとりさうべきすでなる世へのおまへをこ
ともざはいへべなるをこなりまるはやんべ

なるすべりなれど世(よ)もうさうぞすくなくいかで世(よ)
うひろひるおぼしおもへめれどふしてこそ後(のち)と
てこたべずろびこそ生(ぜ)ろわざされ
めれどどりべこそりて中(なか)のなるべそく
べきずる(新勅撰二尚)やうといひるべへのこれこそようづ
ひいでるこそをれぞまりたる中にもまるこそぞみ
くまて中(なか)れをれのぐうはあへそり出(い)
でこそひなりたるまくのんぞもうも瀧(たき)
糸桜(いとざくら)の宝位(ほうゐ)どものごとおぼしおぼしずまく
のぐいやうあやすこそ方(かた)とそこ
みひいでかでるりや家(や)のうちこそ

めこそなどさることなきまでよそぶるまでねさ
までもそうづをおむすめなどみとこめぐく
おひ出るものまであるべし（相壁之表面）えづへよいでこそて
さひひのさいそへとりいづるあしどもおほり
うなどいへばず（添刊ニ始）そるさけきをまよるべる
なりとそやひものを（以中刊）ごとくへのいそんやうよいそぎ
おほをるとそはねるくむ（三始る以刊）（女三表面）ましばれ（とき）ばかり
おほうちなひやんごとるさあるりのうちくの
もてなしをひざくれさんはいまいそずな
まをしてくおひ出けんといふひるくおばゆ
べし（落書ニ面）うちあひてすぐれさんまりこれそ
くさるべきことくおぼしてめづるまりこくふも
おどろくまでなるべきぞおぼべき程（ほど）なきもので
うちがのこまうちをさ物あさてせよりとくへま
もてればさびしくなりぬれさんむぐらの門（と）はさの
のほどらうげなるくへのさぐれさんこそ
うぐちなくみえづくおぼし先いでそるう
さとけんともふりよぶへるこまんあやしく
心もまるやぐうるちくのさ（英式ア妹ニ面）おいもれむつしげよ
ふさりすぐせうとれうくげよおもひやりこと
なるこまなるものやのちよいといくさひあぐり
くるくさいでるこまやぐよゆくるぐ

べきだのどとなんうるべくおほうとにれいうう
あまさこうさうそてなれめよさてもありめべき
人のするをすきべてうふのすきひまる
人のうう海をおうまうこうてせんのこれるね
どひとへおもひさむべきうべとすべうよ
おれべくは我ちくいうをてひきつく
ろみべきところなくふようやうもやとそう
そあつる人のさぶまうべれなるべるずず
もわおまようるこひどだそあつる疾ざうを
すてべくさひとまろ人はおまめやうりとみ
そそうまうくあのくめもさろまうをてう
るくなうされどなふ世のうう海をうまへめ
むろまふこをうべずいとゆうさともなてや
まべうれうとなされえうひまはまていうべ
うれ人はうぶひむ而をくよまめべまる
侍従の局右二句
ちさうなげるくわやうう何どのものでいは
ちうもうべと為をまてな文をけどおほと
うまとえうて。すうべうのうふうるく
おをうつまるやうもそてべなくすべ
なくまる世わづうるふさくうういひれど
いうれとうひさいれとずれなうがうくく
まてうみすぬそう。木枯女二句
ぬそうびうめ（えん）ーとれいあま

ひとなどけるひさこゝろおくれてさうなをだにあざく
笑をうごめれなんとすべしこゝぐ申よなれゐる
るまでさひとのうちろうのろいかものあくれ
ちうすぐしうるさつつめぞのなるけなりおうし
さるよすめるろうなくてしうるべしとみて
さるよまるまめくちうさすらをそそくみて
さみづらよひさうなさいるぞうぐれひとん
（指その女房）
まうちろけろうしろこぐうりをして（あさはは）敦クタ
のむうようつけてもおはやけわさくれ人のさ
ずまねぐうさうさそれめかもみしまし
ぬけうう海をこうさ人ようわざうらまもばむ

やうくてくむひとのさうわさおものひうろべう
むよぐうちもつくをぞやとうちもまれるぐぶ
もさしぐさまいあやなさおはやけぐさ
ちくふひとりまおものあまうこなどおはのるを
なくうたさうやむてさへぐうちそむれて人
ちれめさひいぞるわしひをもそれ（あれ）衰ともうちひ
とうごうさよなよぐそなどおろうさこりな
ざみさうんぐうぐばロおしうめぐひさみるる
（紫上二句）
こめうさそやそうさうるむ人をくくひさつく
ろひさるハなどうみぞうんぐうろまなくくも
るをしてあうさうちすべしげさむうひてえん

狂いさてもらうさうろうつこゆーこうべさ
とうちくるれていうべさーとをとうひやりおり
ーよ志いでんわざれあざこととまあこよも
私ふしおもひうこととなくふうさいうろうんハ
いとくちおくこれまげるさとやうとろ
ーうんつねいすこうそばくもくふつさなさ
人のおうみーこつけていざくへするやうもなり
うなどこ後るさもれいひもざめそびくく
うちなげくとはでこれまでうこうちをは
さにいいとでとくちおくねぢけざまーさ
おばふなくふさひくへこもれまあやうえ

志いうるふ心のをもむさなこんようべとそでつねの
まれこ前よい心ひとくべりけあまりれゆへう
心ざくへうちそへこんをしこうろびおもひす
うこをくれこうるあこんをしあざだちよまと
めくはへじうーろやすくのざけこ前ざこつく
しうこくべのなさけいとをのづこーもそつるつべこうざ
をや（夕教上三句又作物和決三句そいうあこと談一女房）えんよ和こうじてうこういつべこうとをと
こころめさ後よとものびこうへてつれるくみさ後つ
くりふひーけよこひあまるよ紀いいこんこうをく
すざこさ云の葉おくれるうこうをみをさ云のざ
るべこうこうとめてふこうざれる

うこづくなどまさひろれめて、やうそよねて
はおねなどのやどりよりてとそうて、ていとあれる
るまくのみちとるとも、渡をへなんおとて
ねりて、今さよいとりぐさくよりそひて
くるなりふざけみくんおとまくるる。
みるめれまへよつくさとなりとも人のこころを
こらめやうにうげくれてくまとうふをよみ
んとするねどるあの世のまれおもひなるふとも
なごさるるさとなりふつうやなど泊めるそられ
て、なくれすこめれやがてあまよなりめう、
ふひみ泊ぐそいとふすめる指そて、世ようとりを
すべくもおもへくばいでなるて、うくそるおば
ーなりよけるよなどやうはなのひさわるひよさ
ふてひ、ねるすくるうーとふひるれめおとこ
そつまて、渡おをばつふ人みるごぶちなど、私
のれいいなくれなりけもあくれ方をなど
いまよげこひさいごをうさざりてあへなく
ころばそれぶうちひそうめう、主のれと渡
こばれそめれば、おりくぶよそよんじえず
くやさそよもおるまほけもなりくいふ
ざるなこと給べば、ごりにあるほがもりも
なまうひまそいうて、なりそうまうべ

ちひめべくでおぼゆるこゝめすくをあさうこゞで
おまにてなるでこゞねとりたるんもやゞてそれ
おもひいでうめーさうみーあゞごんやいつしか
よくもあひそひてよあんおりにとうこんるさ
ざみをもみすゞーこゝん中ーこそらぶりみく
ゐれなるめ我も今ようーろめーさくろろをも
れゞやいまるなめのようにろみるあんひ
とをうこゝて氣色(けしき)だこゝそむしんそるさそこが
まーりなんふいうにろみるともみそめ
しふゞーらめーくおもすゞさろろのよがま
みもひくとうりめべでよさやうなるゝ

さうろそよこゝめべそわさなるすべてよろ
げのこよなゞろうよそんず(漢上ヨ)べさこゝをゞーれる
そほよはのめーうむべこんみーをよくろう
ずみすあなるゞそれようまそあこれよものそり
めべーおはくはりふよろこんゞおそまりを
すべーおまりむげようちゆうべこゝろちしる
ふやすくらうこゝやうなれゞそれゞーろこゝろ
ままそおゞはろうるゞめねのうこゝしる
まーもげよあやなーさいはあよいんは(六段)将
うなゞ(七段三行目)ゞーりてありーとよ表ともろろ
いこんんのふれまーげるこゝろゞひあこんこそ

べきぞかれこのやまちなくてすぐさま
さーなどもてもなどうさんとおぼしくれど
それさーもあらじとよくさとなりて
あんなのどやうのことをれどんなりはくるまで
よあるまでうろうろいうて（おしまう）おしまうとのひめ
まいこれさぐめるうひるとうへぶまのうち
称うてごばまぜ給（たま）へとさうくさくふやま
ーとふこれこまれさぐめそせるなりて
ひぐらさねうち中おいこれとりこさてくんと
心入てあへさてひおるり（ろ）のしとまよりそ
へてお給（たま）せまれさくさのものさ心

ままもてはとうりぶまよまんでのもてびび
ものそれおと給（たま）もぐまのいそばをぐれば
さろうもげこうさほべうろうとまよつけ
てさ西まへて今めてさまうつりておう
さまありぐだよとてまさくまうてさくさ人の
でうどのぐうとまさぐまれうやうあるものそ
なんなさいづこなんうをまもとのまよど
ずくさ西こまこれ給（たま）へ一（どう）まよぐおけ
れどまさぐさくさうれてうぐくさくさる
をとうまさうけぐめふとまみてわれぜう
れどひとのこまぐあのうらいの心あら海（み）

のいろいろのすごうむのそげーさげぶ
ものころもめよこのよのなよれおごろ
くもくつくりもれしぶようせてひと
るいんのをおごろうてごちらはざめよ
そありめべーれつのこのこずるひ水の
なごれがよちくさんのあみそ向げよくしな
つくやつびくるなどをそげうるませ
るすぐうなめこのれるまおぐごばるれて
すくるけぢうさまごれ体ぞれろろそひ
よそてなごとるんよぞいいくる向ひとよう
れいそごめるあてよくるうふ

うくさことはなくてそうこれてんるごよりつ
ぢるそくるくれ父(けーさ)でめうぶちみうよう
くもくそーさごちれどなをまこれをぢを
こやうくえろいぶうくべのみで・さてそめ
れど今(ま)ひくびとなべてれいれ(を)ぢちるん
りけごろるさるぶようこそ切れまして
人のこれせるつてそうさごめんこるれ
なるけぞえれむまでくそみの人切るそれて
じめれこと・すさぐくもくともア切んこそち
うくおれいれ(ほ)もめる雨ーのま中(れ)おいくぐく
そんごて・づえそうくそむひおのそり・のり(紫式アカ)

まま子化の師の
の師のやうにそしりさわぐ人のうちにも
も。例はおのれどうつゝでいとものくるひ
ともえたものびとくめずなんありけるや
いとげらうなれば時おくれとうみ人ゆゑ
さをつゝやうおうちなどいまも例よりは
しづかにさびしきほどをすごしたまふ
よともひとくめゆゑずようべはおもひの
ほかにくてとくまぎれありきくづれ
もれきんじをいとおしと心づくるうちに
らておひらなるまゝにはとひつゝのまゝに
ゆるしなくうらめしきさまにかくうち

なくめをみしるるでなどくちもとうん
とふぐうさりくもゆてぞのんこゝろえ
らうやうなんゆゑこのめのあるやうもも
ちいくさぐりけるこゝろふいうでこれ人のこゝ
ろはとるさまをいづこそれうすぢのこゝろ
まなれはおもくはえしじとおもひくげき
くこゝろまてあまゝやうしろうねそ
もふよまでこゝろくまゝかとおもふりし
ほどよすめうるとさひしくじやうくこゝな
びさうてなゝびゆさみうさうさうちをもこの
人なやうまゝんとやうるくさひうろひうよ



おりさんげんと年月をうちそへんおひろげのそ
ていとうとくなんあるべくそれだにうきうるそ
ひきあひさきさぎみっなんあるとものさげよいと
時よつだにくなりてよくげうきそぜをいひ
そげまよめもえおあめすぐまて、そうび
ひきものさきそてうのて仕まをおろくもく
うきてうきぜんつきあれどうよくまぐ
らのまずさまあずぞづめ給うつき位
いぐくなうつくくめむ世をそむ
をあべきをなありなどいひをぞてさぶうみて
そぼうなあれとけをよびとうめてまでめ

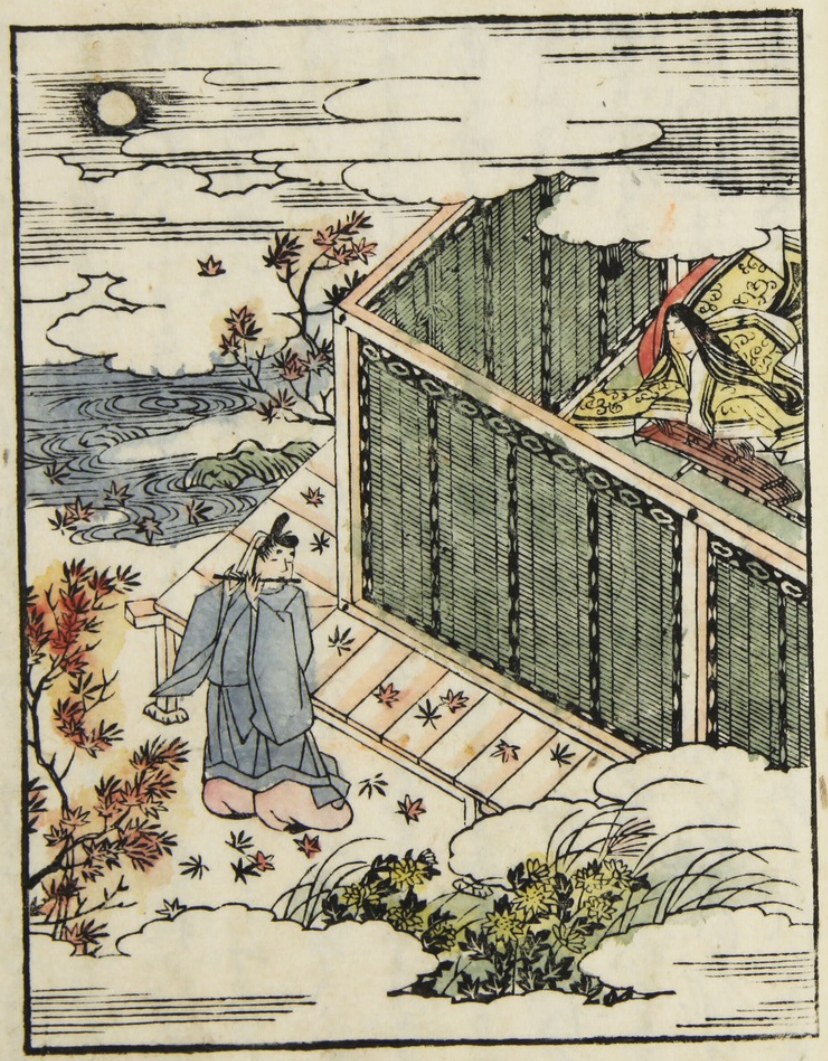
ゐ
ゑ
ゐ
ゑ
ゐ
ゑ

ひとやごもりのなぐさめにあそびものなどもちて
そでざるくいでなどしてわれもようやうのもの
さうぞくなどもありけんとおぼゆるまでいとなれ
どふやうのものどもおほかるべきにもあらねば
いとめづらしくいろいろあひしごのみにて
ありつるをとりもちてみずはかづきすてたるやう
さんなんどやうやうにいろいろもてきたりて
さうぞくやうのあしだなどまでくいひおほ
しとそひさもぜずさうのまうどぎみたちもよろこ
のびざくやうざいくつでありしかば
なごごいえなんどまでまうでつどひてのの
しりさわぐまでおとなひたり
まおもひなごびなんあひうべきなどいひしを
さうともえさひさるれどとさひのへしかば
ばーさうえんのふるまひあんともいそぎ
いさごつるびさてこをもちひごはいさくさひ
なげさてさうさくなり侍みてうぐだくれ
まさなんおぼしおきひとようちこれこうさ
んるいさごうさてありめべくなんふのすへ出
らうさうさるさあごこをもよさうれだごのさ
いひあくもうさうひなうさごさひめと
いさんもうさなうさごれごるのものもさる
うさくさうれごさてうさくなん侍し

あやちくふぐろ　ここそて　これ（森）あの家（ふ）
ゐなりれば　だれ　ざるれ　ちる　泥（ひけ）の水　うげみて
て　月ざよやど　うすき　夜（ひ）を　すぐさんも　さすがそて　おり
伯あて　もとちりさる　ふをは　ちるまやありけん
これ男（おとこ）いくすぐろそて　門（ど）ちろさらうれすのこぶ
川もれは　ちりけて　ぜひ　ねとう　菊（きく）いと　面白（おもしろ）く
うれろひはそうてぞ　ここさう　ほへる　お葉（は）のくぶれる
表（あれ）とげよしちり　おところなりけり　猫（ねこ）とり出そふ
ここそて　新もう　なるつぎ　ちうう　ふほどり
（森）よくなるぞむを　ちくへ　そのへちりけ　うくて
くうさあそせう　ほどそう　いほうずう

ひちのそうべいあのもれやそうくうようさあうて
すのうちうち　完（くわん）そう　そめさうろあくこふ
なれば　ここすあの　ほおりつるなうず　おとこ
いくめで　すれもよあのうそて　庭（にわ）のお葉（は）
よそ　ふさわ　ここもなれなどもさま
ここそをおりこう

（左上人こと）琴の○も　ほ（ゐ）もえなくあ　宿（やど）ちぶこれるこ人
をひこやともあけ　わろうありなどいひて　今ひと聲（こえ）
罗（ら）こやもべさ人のあるみよ　よなれこいのそなど
いくあぶれくれば　あいこうこふつくろひこう
まぐ（未松安こ）ーは　吹（ふき）あこすめる　簡（かえ）の○をひこさとぐ



ゆべき云ぬそなきこととなまめきさうはすくよふ
くなる伝も志てまるさきみしとをだうんきうさ
でうよきくくする。いまめくくうひ紀さうれ
つまどゞなきさの庄あくゆゞまだゆきさて
らるんくゆ

さ約
しづはぐくうちうちてみまづへべなどのあくまぞ
ざれごうすぎごてるいさてもみううぎりはおうくも
なうめべくとうぐくそとうる有まてこれぬよ寺
ぐとさみのへむおさくみもーげるくさーすぐひ
ううとふそれてそれ我のことまつけてこそ。
まうりてうーぐこれみうひのことを思みうまへ
あこみするよひうさ寺のふうぐよふ仏さやうまよて
思うるこというともあやさくうれもーげるくおばし
物さ今ふうねいまてされこなんさみのへてるべ
さ・れ心のまうまおくバ落めべさ萩のるひろはぐ
さてなんとさ物うむざのうへのあくれなぐれ。

えんなのへうるうすさぐくーさのここそ・おうーく
おばうううあいまうりともなくともあまうり乃
ほどよおばーもうねなんるよぐーかいやーさ
いさあうそ・すさたうあんあまふ心うせまへあ
やまうーてうん人のうるれるる落をもそつ
べさあれなうというむ・中抱当いのうるぐく・添ささ
すてるるうそ・さるこうはおばとべありいげ
うこうつくと人うるくくしなうけうれものが
ぐうるうそ・うちやーひおいさう討・中抱なる
がーいさこれあのまれ語をんとそ・いさ当のびてみ
そあーうーしへのさてもうりべうーけてびるし

くだなどふべきまでもあらじと思ひへだてゝ
なれゆくまゝに哀とおぼしたるけしきなどくわ
ぬものゝおもひの人〳〵をおぢそうなれでうち
まもれめでたきもみじさたのむじょうけてだうら
めつとやみこともあんとふなどおぼゆるおり
くも侍をこゝろのやうそひさもさとぞ
とやうつまさうなる人ともをひさもずあさ
ゆふもそつけさんたうさ海よみてふぐう
うちだみわうこともなどもありさうし
おやもなくいとこゝろぼそげさぶこれひと
こそいとよしとおれておやうさ海らうしげ
なりさかうのぶけさをぶうそひうくまう
らぶりしはこれ侍のみうわうちうなけろくう
そあることもなんさうたうりてうもめいそ
せうけうのちよこそさ侍がさうさうさす
やあんともふずふ月元ずうぶうそこぞ
もをで久しく侍よむげよおもひ侍れてふ
ぼそうれればおさうさもれなどもこのしよぶひ
ぶづひてなでこれをありてをこうし
よて濱ぐうさてそれうのこいぢてやひ
ゆふべいさやこちうこともなうさや
山ぶのうさ泊あるよおりくる哀いうけよ



なでしこ容姿(かたち)ひと盛(さか)りまさるころほひ

例(れい)女の

いとおもひ

あれる家(いえ)の

露(つゆ)

なでしこ

花(はな)

色(いろ)

なでしこ

袖(そで)

ふるおぢのいひなすやうてゝ、まあくそこうこゝろ
ゑさをゆみてゞなるゞよまあ〳〵おもうてゝ、
いてそうでくつてまつげよまでそうつくし
てゞつくるとそのひとりうとみてんにうるく
くるつくるおとおもひとりうだいやすくてゝ
とぶくそこゝ仏(ほとけ)ほどゝ給(たま)よなくこゝてそこゝろ
てうをみつゞまでゞあるあつばかりるもせうぞさ
すふらんのくれとそのひとり行(ゆく)わづくつげ
そひもんどくそうくをみしまつうばうくもあくが
らさでこまつゞよなくとゞをゞさうもまれは
まうつてなどくこゝろやうもなりなまつゞれなどゝ

こゝらうくなつだいうぞでゞひんやだなか
くまうをゞうまをゞえそそゞつけなゞこれこそ
のまひつゞそうるさゞあゞなあれつゞれるくてゝ
ゝとふひけるまつゞであくれそゞうゝものやく
なくさうるおもひなうそう今やうくわなれりさ
くくよゞれそうえそゝものそひそうれぞゞなうくひひと
やりなゝあむものこうそう仏(ほとけ)もあくんとあばし侍(さぶら)
これなゝえそうもはまつゞくゝみまゞばそうさうる
ゆけつゞれゞばよさゞれ和(わ)よそうひつゞであそうくよわ
すれゞゞれゞれどゞそゝうつてそんそうけわゞつり
くゞそうそゞいあそうそうそゞよなうなんやゝとれ

紙すくめけんうどくをさとすさしろ衆おもろ
べー　ふもとなるさもうこひそみべくれば
れとつみるおもひさぶめずなりめろこれ世界やさ
くぞさりぐよくべぐろうべさ　これ海ぐ
のさろさぶりをさろぐ　なんずへさくさくさ
まぶあんいびこまいあんな若狭　乱めとさひ
けんとすればうげつさみすうんこそ　まろ
ふびうめべくれてくれまひめ式アうあ
みぞ　亂色あるさいあんすつづうりやさ
をあうる走ぶ　み中　月なぞうこさうぶ百和
ねんといへどうれさみ　まやうをそさ

ものへいなよごくをさりさんとやひ筑ぐ
すよ　まぶ筑紫アの文章の生よ　ねし時　こさあれ
をなんこみへ　れ馬頭のかのへやうよ　お酒
やけどをよひあくをやさくぶ海のせよすよ
ぶうさふをそそをさひめぐうさんうさよ　ふりよ
うくざてのさ注ふまくのくもそぐし　すべ
てくちあすべくなん作うざり　それいあるく
てのもよぐくもんなぐし作よて　まりうう
まひし酒ぐよあうぐれむすめどもお酒うりや
さこのへて　はこさつあぐよいひうりて作し式
おやさつけてけうぐさまて生て　我ひろの作う



すくよかにうつくしなどは物さと出ばくと
よもだ(十七俗)まじくちあさましくとやてそそくづくて
わーひ給いげこのさるめのあるべきおいつるま
とをよこそむひひおーあむてつけさこと
つまごさをていそむるるーと式アをあげ給
よくうて すてろーうんーとをもと せん
夕へどこれうめづーさこといひなんやとてうち
めとべて(十八俗るる羽)男(かたこ)もめもわろあれいわづるとわるる
のーとをのこうなくうせつくさんとおへるこそ
いとおしくれ三史五経(こきょう)の道(みち)くーさうるさを
あるこうるさうあるむこそあいぎょうなるう

めなどはめといえんうへもあることもに
はやけわさうへつまてむげもさいうへず
さもあんわざとなりひまおかひどもとうて
どあんへんのみくまめもとまうへ。さねん
まおはうべ。さうまうへさどもれめどこおなばすぎて
かさすめうあおうさて。これうのさをやうる
まばとさねう。心ちはさうもおもはざうめ
とどれづうこはくうさうまうみなされか
どうて。とさうびうう。これいぶふの事まも
おはうさとでう。哥（うた）むとさへうへんのやうて所

まりくれおうへうみうさとをもでめうとう
うみつ。すさまでさありく。のみけうさてあ
しうさうとなれへうせればなさけあう。えやざ
うんへんさうへうさうべさ名（とう）などえ月（つき）
のさちよういそざまいうあしだなすのれあやめも思ひ
そびめれめよえなうあ称をひさうけ九日れえん
よまばうこれ行のの心をおもひめでうへいうまるさ
おりる。さうれ家（つか）をうへうをなどやうのはさ
なさいてなうへあうさをうるでもとのづうげる
のちうおもへぶおうへうて衣（ころも）もあうべうりけうこと
のそれおうようさうへ。めるまあなどを

くらぶやまにてこそ・ほくふうをきゝてこゝろのこと
なだにはさてもおばゆるおりふしはぐ
さひろあぐるのみにてこゝろみなるけぶて
ざんなんめやすくべさずでゆるそれんす
とよさてばこゝろまでなくいとうゆしう
んことともひとりのうちにすぐをべく
なんあべるけるなどいふまゝえひとりのた
ゐろさ風とぶのうちにさひつげまうおこれをさ
らばまるさまずぐさまとなくよれしのひは
れとおうぐさまものみるこゞろ
よゝうさいとものなくそくいあやしさと

どもよ残てあしおつからうさて・ふみ泪乱色
もなをれうくのこゝろもうさひのすおぼ
の恋心おゝそれがまでのうち大堂のうさ
ひそれけさひもけぐやうけさくぐれうあ
までぶなばこれさそいのへぐのすてぐさく
ちいでしまあべさはこのまれめぐけ当と
おばすおうあまうううけさされうち夜のよけ
ぐさくぐけよさひさばまりまへをさう
ぐゝうそ中油そのまい中務などやうみぞ
なべさめわうへどもよさそれどなどのひ
つおいさよぐれのへる出りち夜をみうひ

うとおもひ給(たまひ)しうち、おとゞもわたりのそうちとけものゝたまへれば、事(こと)へぐしてくおりまいてれ、物(もの)語(がたり)きこえのをとあけ(添)さうとおがこのゝへばゝんどころ、あかう(添)まゝてげうそくなりおりなほ(地)いとやすらかなるひなかやそうくなる、ねど(など)よひかの私(わが)うちうちにみるごりて、ゆりくうとさゝやき(添)さゝやき、れいていふ給(たまふ)るさまなり。三条院(でうのゐん)まうもあるごすぎらそ(添)ぐくまうごんいとなやましくさまよそおほものごもわりいと(地)あしくさとなりとこれられさこゝやさゝみまそうくつゝうまつるゝ人の中河(なかがは)のわたりなるれ(これ)ど(ども)水(みづ)をさいれてすゞしくさゝげは物(もの)とゝさゝをいと(添)どうなりたるやまうこさるうしなどひさいれはべうんおとゝのまみ(地)たのびくのれうたゞべどころはあまるこゝろなりぬべくそれどひさうくほどへてわたりのへさうり。るみさゝびてひさうぐへほうぐ殿へとおばうんとてとおうこさるべうこされうこよおほをぐとうのへいうけ給なぐこまぐでさゝて伊与(いよ)のうこの弟(おと)の家(いへ)つゝむうしと物(もの)語(がたり)てあるなんまうつうれう泣(なき)て、をぐさこおれ物(もの)なりあげなるこよや物(もの)うんとしまうなげくさゝのそれ(これ)人(ひと)ぐくうんうれしうべさいおぐをさ接(せち)ひいおおそろうさ必ち

すべてこれ事のうしろよりとのぞく。
げ地ころさまざまの物もとめて人をしらせやらいと珍びてこゝろうつくしうて
よいそぎ出ん人へ老者おとぐよもすゝぎ給ひずれともも
もむつまじうざうざうてをりまめ。紀守ここの門
うるとわれど人もさく入ず。さん屋のひんが
しおもてくらひあまさそ。うちあれ
きのひしうろ。あのふだんなどさうるま
おうしくさるまうり。お中家ごりさでござ
して。お裁なごころとぐめてうへうり。
しくそ。そはとなさむしのこゑぐ
はうさげくしびうびてをうしこさ在なり。
ひとぐわる爰ころ出さういげうのぞきおて
さけのむにうでもれもむと。こ在ろこの
いそさあろほど



（源）まいのどやうなどめのそでぐ（源心）れ中のこれまうり
いぞくいひしこれなくこんうちよりおぼ
おもひあげわっ（け）ゑらるよこさうをきゝつゝむすめ
なれだに程うつくしくそみとぐ見るまるよこれ
うおもてさぞ人のけうひするこあのきゝもひさう
くうてわうさうゑどもうくゞずこみすぐしー
のびてわこひなどすゝけくひぐとさうびさう
さうしをあげさうれで（紀守）こゝろなしよむつうて
おろつれば次ともしーさうすきびさうぐ（後ろ）
のくこさうもうさうよ（源）やそこさうのそこゆやと
おぼをぐひまうなけきばきぐしさうぬよこれ

ちゝさまやまたひねもすなくべうちうめさ
いふしぐもさそのへでわれうへるべしいやく
いうううあでらでまぶさまやんでよるさよが
さぶまり給へるこそさうぐしきうあれざれどさう
べさうまのはぶくしそくれありきのなれるど
いふまもおぼすとのこふようりのみれでぶべ
むひつぶれそやみつるでまもひものひもら
さんをさくつをてんとさなどおぼしのよるう
ことなるればさくさうー給ひ式アマ家の娘ぎんおぼのさ
ぶかさてまうり給しうるなど成ずうほくゆが
めてうるも罗ゆうけろざまうくうずすがち

まもあうるかなをさをとうさかむうしとおぼす
うさいでさそうろけそへ次のくうげなど
しそれぶ抱でうまれうとだうすもいうよ
そはざるこのころもなくていめざまらさなるで
なんとののへいたすけんともえうを給うす
うこまりてさふ抱つれおまうしょうり
なるやうてお給ものごれぶへでもこぶまうめ
あうでのおどもおうげてあり・わうてなる
衣上の給どよぶんでなれうるもの伊みのみ
のまものうあまあ年よいとけうひあてえう
まて・十三ぞうなるもあり・いづれいづれなどく

ひのつゐ（終）それ（に）お（え）湯（ゆ）のとこのすゑのまつて（ま）いとうるはしくかけなをおさなきさまよとられ（ま）待て（つ）
かゝ（給）なる人のみすがらにて（ゐ）なりざしなどもつきなめでたくけうに（ゐ）めを（ん）ながなどもいとひけなどすゝくもつ（ハイ）えまうでらひゐざめるとよす（添）衣のこともやはあひだ（ぶ）やまのこと（のち）のはのおや（給）さなむ（ゐ）とよす（添）ものげ（添）なるさおやをともまうけさうけられう（門）へまもとこゝろめをとゝて（ゐ）なづくへよいづこそむともしこそうをし（ゐ）いうよ娘よけんといひぞやの給さをし（ゐ）せこそてさぐめるこゝろもれなれなど（ゐ）いとおとすまをのゝみ（給）おいようくうる

物し（ゐ）なるなう（ものなう）世（よ）中（なか）といふもの（ゐ）はかなくて（ぶ）今も
むうしもさぐまうしろこと（ゐ）なくよつゐてよ
女のすくをはさうひとうるなんあくれなゐなどゝ
とゝて（ゐ）伊（添）与のかみ（きみ）いうづくや（きぎ）まとうとうんな
いうづく（給）わとうれもうとこそとひて（ゐ）なめり給
すゝぐもとこゝろなよぐこうろめてうけ
ひさゐ（ず）などよ（添）さうともまうこうろのつゝぐ
もくいまめうさんなおろしそむやはそれ（外）
くいとうして（ゐ）うて（け）氣（き）ばめうをやなど（ゝ）もれ（流）
しまつていづるまで（給）これ（ゝ）もやおろし（ゐ）
めるとそやまうりおりあんざんと（地）安（ゐ）いす

まいらんと侍(はべ)(保)いおこれをこびまうめうけくひなれどうけごのをゆみよのさあげおこれでおあるる
ようにうござりけり事をさうごぐらよそて
火にはのごごとまへごごひものどもを亜(つ)れごごろうごうごと中(なか)をかいり始て
けくひとうあよへのこれでごひとうとさでやうそてうごうなまわごうごれどうへ
なるあをごやうまで(保)中おつうへのうへとゆくうへ
ちごてのの後(保)もくもひわれでよれをそけごこちごてやとびゆれごうはまるあ

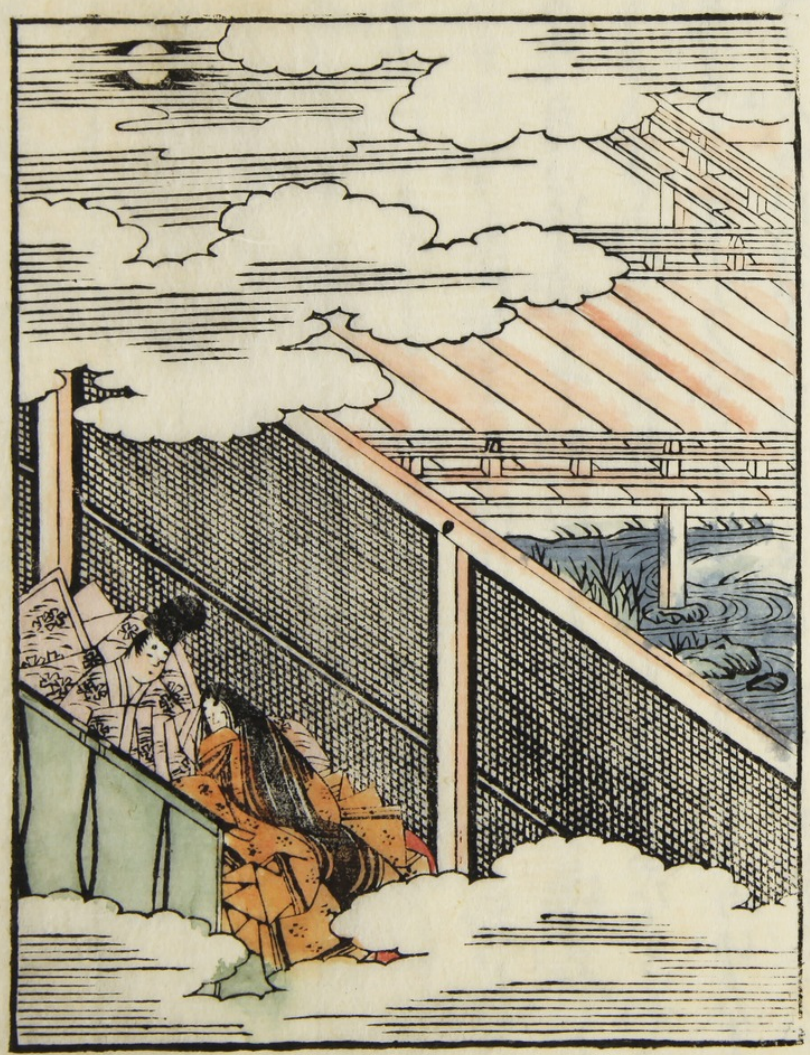
のさうごてやとまおそでごうちつひよおごごご

すさびまうでさせ給ふにおはしまして
さてとすこしやすらひ給ふほどに
れだうさいでさせてさうどのもよりそでおさ
とあつかひ申ざうの人さながらやうやうとのの
ーくてさぶらふほどで、いとどくるほひさ
ちそうみまもくゆうくうちみするよりうち
めあまりうことはいうもおろかにとさひまどろ
れど、ゆめむきるまでなくこの人をーぐてあり
らうともひろれぐてめそれぞよの人のあまりー
らんいうでにんふもさはぶそてきてひそてれど
どうもなくておくなるおまーこ入のめさうど
をひそそてあうさされむくよれもうと
のの人ぬいこれ人のさてんこくさへきあぐうり
もうなそなどまでにのそなりてくるか
やまーげるいとおーれど、ぬいのいでこるさ
らうでのよ云の葉よりあんたのれよろづり
なりけくさくのおつてすべめれどおいてあさ
まうそうけくさおぼずそてうずるめ方
なぐもおぼーそでけれふぐ人の和もいうで
あるくいやよるへざんいてうやうなるさはすくさ
くこそてゆなれそてくさーちものるをみく
なりけるくしとそのいうるあるよげよいて

おくふかくづきけるひなれば(源氏)そのさはぐ
まぎらひてあるおほどや、かくなべて
つるおもひなるのみなんうしてありける
とのづからやうもあらんあかぐらるすさ
びさまになるあとをさうべきやうげにくあぐ
めれどまつるよしところなるころろまどひを
こりぬるあやまちのでなんなどまあぢらて
ころがよのままへどいぶかしぐひるさるほろ乃
いよくうちとけてこまびれば(文保心)すく
ようころろづきなるはそしてまりくも
さらぬのうちひるさまそすぢてんとやひて
これるくのこまでなるしろへがれをやぐてう
ようるさふをもあてくへれば(文保心)なるよ作(ナリ)のん
ちてさすぐよあるべくもあしず(文保心)まくまよころろ
やまくそおかぐちなるれころろぐへをいふる
なくとやひてうくる海なぐいとのれなるふぐほ(源氏心)
くはあれどみぐまくはくちりうまのと
ふばすなぐぐあぐくくしくふれば(源氏)なばてく
うもまくるれまくもばすべさおばちるさる海
なるもくそちぐりあるとふやひおくあむげよ
世代やひそあやうよおばれなんばてつるさ
とうくられて(文保)うくうるのほどのさぐま

らめづらしなどいと方まさでうるはしき心ざしどもまし
しくぶかうあるまでもわがものこころにてこれをこそ
のちせもやとせひのみなどなくあまりとていとうる
うなるうさのものねをも世俗(よぞく)よりひるくこゝろみの
まどろなるべしといとさまざまにけさうして心
ふかき海げよりことにとりなりもてなすべき様なく
まめなることのみおほかるべしさもなきあだ人どおさお
ていとつゝましなるうけきやうにかたち車ひきいでよ
などいとなりうちもいでさせてあなどれりなどなげ
くべくて我みくいそぎせのべさせなどいみじうあり
ふかき
あいぎやうのつまぐあんこともいとうし

そうへていとぞれ文などもとかんことも
いとわりなきをおぼをよいともいてたくの
中将も出てこゝろぐれがゆるしてもえひき
とゞめ給はでいでさせ給へばさすがに心乃
てさもあくれもあさうめ世の心出いさ海ぐ
先づこゝろべきあれとそうちなき給
れどそこをいとなまめきさうるもさぶくる
よふあくこゝろ
ほれるさ給うこゝろその簾(すだれ)内よりあ人
めまでなどろろみんあ分のこゝろ海をなりみよ
いとつるまがゆきふうてめでこされて



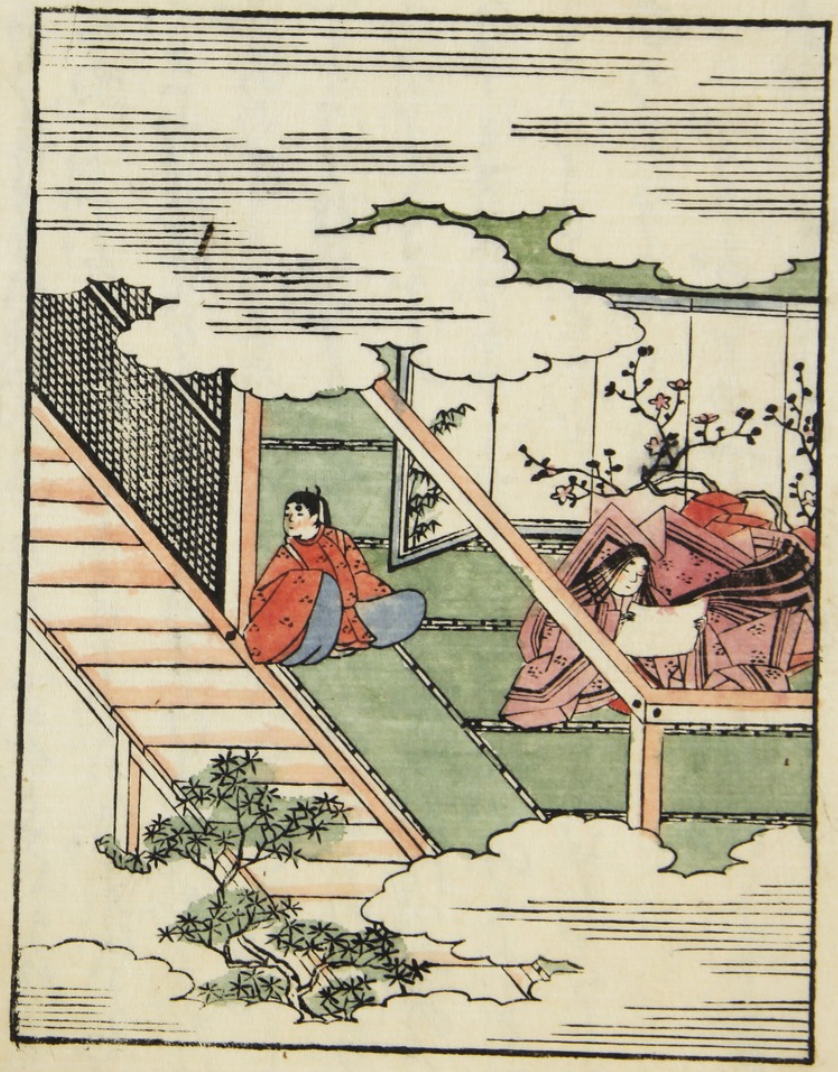
なしもなきよしなどぞつゐにてすくくろく
心づくしとぞひあかしつゝ伊ふのくにのみやこおもひ
やられて・夢（ゆめ）やゆめんとそそろあそろくて
まゐ
文保（ぶんぽ）
多のくに氏なげくよあそであふる秋はと
つきそれてぞねもなれりけり

てくあくなればさうじぐらまでとそう給うち
もとも人さはぐれぬひとさそくわれ給ほどに心
ばそくぐぐうの園とみしられ給なをてなぐさ給て
られれおうらんまばーうちなぐめ給まておそて
のうしてそうたのげて人ぐのぐくべうりすれこの
中よれ程まそてそうこさそじれたそうほのくよう給
へうれにあうと殿と男うむ中みまへうすさぶどもめ
めう有いう明まて先おそまれうもれう新やうま
うて中くふうさあけばのなうなうぶなさ宮れ
新文もまでこうん人ぐうんまもすぐくもみゆうなり
うう人うれめれそうまれいとむいうくとうて

やうんますぐるまをとうそうこぐらまそいぞめ
夜まそうのてまよみまもまそうまれ給みず又あ
ひこうべさうなさばおてそ人のむまうんむの間
といるうんとふぐまくおばーやすぐれこうこと
とはなれどめやすくもてつけてもなうう中の
ふれるくこまるくこのめめるう人のいひーうはげ
うこ学ーあうをれうこの間どハ夫夜まのくおハ
ーまず又なをいとうさうてまおまうんこれいとお
うくれ心まうそうてうるーくう学ーうらびてさのうこ
とそうう外あり中湖そのこ月えうもそてんや
らうこうげるこしを又ちくこまん人今せんうへまも

かれてまつらんとののへばいとうるさおぼせでこ
ゐなう。あの中略なるへのものひくんとすもむもつ
れておぼをどろ(涼汚)もあのごゑいあそむのとさうとやも
う。さも(紀当汚)ばれうとせ(ざう)そくてまゐれどおやのとさてまうごうと
あやうなんさてのう。衣(涼汚)のこやうくつ
つえしへでう。まとまうやとののへばそう(紀当汚)ゐ
さうべ。まてるれてうもくもう(紀当汚)ゐれば世のこも
ひまてむつれ(紀当汚)ゐとう。地さてみ六日まて。は子(小主)ね
てまいれう。こまやうおうとれなれどなまめさ
うう面もてあてべとしうめ(ほ)いれてうとう

うくうひゐわ(紀当汚)ゐ心うよいとめでくうれうと
もふい(ほ)中略とれまのこもうくとのつ中略さうべさ
というへつえなどもて。こびうげよもびうれば(ほ)
うらのでまう。れどいようくいひもせ(小主心)ゐうこと
こてなと旧の心うもものおなれどおれごうち
みてもでばれまてさうればあ(中略)あさ
まうさなどのいでうあこれみ(主)のふんこ
とうつるくて。みすはあうは体おどてさ
ひろげうういひ(みの)おほて
ふ(ほ)ゆ(ゆの)をあ中略やとうびくまへ紀当汚
まへあうでごうまへけ



めもあはなどめもそそぐあはれなるさまも
（文保）めもそそぐるごとくて、ゆあすくせうらそへうちにか
かをおもひつづけてみてゐたるの日ふ（ほ）
かしまれいまるとそれをうちみうるれまる（文保訂）
ことべきさへまるとととのへふうち（小文訂）
ことそ、ふみのおいざうしおいでいさは
ゝきんとうよふや（文保心）うくのそうなくのおひ
ゝもそそげとをみようことごとうる、
いでおうすけうとはいうおでうさようく（文保訂）
またおまいうおそともむうれて、めまよいそ（小文訂）
かとてまうおそれとすぶこのまうくはろ（文保訂）

べきなどやうにうちうち（思）ゐはべりしほどのものがたりなどもふるごとにもあはれにおもひいでられ（思）ければ

ゆきふかきやまのかけはしふみわけてたれかはとはむあとのしるべを

ときこえたまへるを

ふみわけしあとをばしらでゆきふかきやまのかけはしいかでとはまし

おもひのほかにもあるかなとおぼしたり

ことのついでに

ゆきのうちにあをやぎのいとをかしきをりはべりしかな

などきこえたまへば

うけろひめ（徐心）のうちうちてへよくきびめてたきそうそこあれどふまえそこでのありずよろびのあもとあのうきてひろ殿はわをへさるうしうきてたどりきそろいて（小志心）あさまくつてとひているうひなしとおびはさんとなうさあごろういへど（京鎌行）うくろうきめうろごへつてみまあ（小志心）おさるるさ人のうるとといひてよふおいうごくいむちるるみそいひおどてごうちちやまくれでへごさけずとうさへさせてなんとアれさせよあやしと（元）浪もくこうてんといひごるたて心の中うはうそうこれさぶまりめうあのおびとるてよすごよし

あやのばけくひとまれうあ高ちごくう陽さうのもまちうけてまつばおうしうもやあくまうあこあてせひきしめがるまけつよいうよばこあやうるおばそんとふなごもいくさいうごくうひうぶるとてもうくてもう今いうひなうすくを吸くれごむごんまうろづさるくてやみなんとこひそてうい（徐心）ばうなさんとまぶおさるるさとうしろめくおみしへる（小志心）みのうなまうしとそこれいは（徐心）のさまのしくめづうなりけるふのばごを男よいとそづくしそるめれとうくもしまれ乳色なりとそうもれ

もの給ひていつくしうめでさせ給ひつゝ
はべ
ければさぶらひ給ふ人〳〵それにつけてもあや
なくまどひめでたてまつりしほどのことなどを
のゝしりあへるもさすがにまどろまれざりけれ
ば
うすなゝめにふしやすらひたるほどのうちさる
もあるべきさまのゆめにだにあらでまどひありく
くもゐのうちもあまりでまどひありく
人〳〵あやしとおもふらんとおぼすにいとど
ふるさとびとにもあすだにまさしくいひつ
づけつるをど人〳〵めにさへぬのみ
のはれうけたまはるにうれしくて
のゝひちぐさにあけくれまどひありく給ふれば
そこひもなきひめ〳〵しさもうせぬ
ゐうけするにもたゞこちうちんほどもあさく
もおひなされどさうとてうちさけ人げるさ
うさ夜とこしてまうでてもおぢらさなく尊の
やうにてすぎつゝなげさ給ふやうにはこゝち
とひふれてたゆさてまうつけ給へさんとのま
どゆれば給ふいとけちらけ
れどさはしいつゝなやまうれでゝのびて
うちつゝうをなどもきんさおぼいたれてとよて
わろ殿中将といひしどのゝうれり

うけろひめ（保心）のちゝうへ（上）とくさびめて（て）ゐそう
そこあれどふぎ（ぎ）まえそこでのあひだ（だ）ようびの（の）ゐもと（と）あめ
ゐうさて（て）ひるまわ（わ）へ（へ）るうう（う）きうてたどり
きうり（り）いど（ど）（小志）あさまし（し）くつ（つ）と（と）ひていうるひ
なと（と）おぼさんと（と）なうさあざうりへど（ど）（宝鏡行）くう（う）
うあうろど（ど）へつ（つ）みまれ（れ）おさうるさ人のうる
と（と）いひつ（つ）ふおいうど（ど）くいむみうもみをく
いひおど（ど）て（て）こ（こ）ちなやまう（う）くれど（ど）人ど（ど）さけ
ず（ず）そさへもてなんとアさせよあやう（う）（元）滑
もくこ（こ）ろつんといひうるりて（て）ふの中うは（は）こて
うこ（こ）れさぶまりめうあのおぼさうど（ど）すざうよ

（二五十終）

とまれと（と）ほいおぼ（ぼ）なざ（ざ）めざ（ざ）ぬさくつう
それざ（ざ）ばれとおぼをざ（ざ）さもおぼ（ぼ）うこ（こ）ひま
ざ（ざ）くうれさんあすざ（ざ）なをあていけと（と）もの
すへど（小志行）いよむつ（つ）げさ（さ）こめられうん（ん）あまる
ゐめれど（ど）うこ（こ）げさ（さ）ああいよおう（う）と思へて（て）
滑うあこ（こ）ぶるなすてそとのすてれうさけすう（う）よ
みをもてり（り）くなうつ（つ）さ（さ）れ（れ）（小志心）りうさ（さ）ぬとうれう（う）
くめでうつ（つ）とおもひこれ（れ）（保心）ばつれるさ人うり（り）
中くあこれるおぼさうど（ど）

